

第103話 村山郡の悪疫流行 中山町歴史散策

江戸初期から村山郡一帯に流行した病気の発生回数を『東村山郡史』や『中山町史』の記載事例からみると、主なものだけでも25回を数えています。

しかし、統計技術も症例記録も未熟なことから具体的な記述は乏しく、例えば康暦元年（1379年）には、「疫病流行、死者多し」という簡単な記録となっています。

文明4年（1472年）中山家第五代中山民部少輔直正は、疫病を治めるため、家臣の鳥鬼沼貞治を京都に遣わして、牛頭天王を勧請させました。

その当時、牛頭天王は、「流行り病」を鎮める神として全国から信仰を集めており、東北一円でも早い時期の勧請でしたので、霊現あらたかな神を迎え入れるだけに、疫病の流行が相継いでいたことを示す事例となっています。

流行の時期は、病気の種類によっても異なりますが、いわゆる「時疫」「悪疫」と言

われる消化器の病気は洪水の後に発生している例が多いようです。

これは、長崎をはじめ最上川沿いの村々は、洪水による泥土の堆積や掘抜井戸の埋没、糞尿の流出などにより飲料水や生活用水が汚染されたことによるものと考えられます。

江戸期の主な疫病は、麻疹、疱瘡（天然痘）、瘡（マラリア）、労咳（肺結核）、淋疹（淋菌性尿道炎）、瘡毒（梅毒）、傷寒（腸チフス・赤痢）、幕末の疫病、虎烈刺などがありました。特に、赤痢・腸チフス、コレラなどは、明確な原因も治療法もわからないまま、「傷寒」「疫病」など僅かな病状の差をもって別名にしています。

【用語の説明】
疫病…伝染病・感染症
勧請…神仏の分霊を他の場所に移しまつること

※参考 中山町史 中巻
第9章第4節 疫病の流行

町内のご長寿の皆さん

氏名	性別	数え年	地区名
渡邊 ツヤ	女	104	ひまわり荘
村山きゑ子	女	103	ひまわり荘
東海林エイ	女	103	下川
面塔 ノブ	女	102	ひまわり荘
金子 ぶん	女	102	達磨寺
大内 夏子	女	102	川端
松田 なつ	女	101	ひまわり荘
工藤きみよ	女	101	ひまわり荘
山下とくゑ	女	100	あおば
鈴木ともゑ	女	100	金沢
多田タゲヨ	女	100	ひまわり荘
鈴木 コウ	女	100	ひまわり荘
須貝 俊一	男	99	岡
芳賀 さだ	女	99	梅ヶ枝町
穂積 なを	女	99	土橋
佐藤きみよ	女	99	小塩

(敬称略)

いつまでもお元気で
長寿を祝って敬老訪問

9月17日、佐藤町長が数え年99歳以上になるご長寿のお宅を訪問して賀詞やお祝い金などを贈呈し、ご家族と一緒に長寿を祝いました。今年4人の方が100歳を迎え、100歳以上の方は12名となりました。

お元気の秘訣を聞くと、「くよくよしないこと」「食事をきちんととること」など様々。佐藤町長が「来年もまたお祝いに伺いますので、健康に留意し、お元気で過ごしてください」と声をかけると、ご長寿の皆さんは「はい」とにこやかに答えていました。



須貝俊一さん(岡)



鈴木ともゑさん(金沢)

今回佐藤町長がご自宅を訪問したのは、ご長寿を代表してこちらの5名の皆さんです。皆さんに共通するのは、普段医者にかかっていないということ。ご長寿の皆さんの大変お元気な様子に、佐藤町長も驚いていました。



金子ぶんさん(達磨寺)



佐藤きみよさん(小塩)



東海林エイさん(下川)



Time Slip vol.27

今から23年前…
1992年(平成4年)

『世界に目を向けて—
ヨーロッパ農業研修』



縮刷版第2巻P690「平成4年11月10日号」

今から23年前の平成4年、外国の農業を実際に見て今後の農業経営に役立ててもらおうと、町内の農業者を対象に「農業海外研修」が実施されました。

第4回目となった平成4年の研修には、町内の若手農業者6名と町担当職員1名の計7名が参加し、10日間の日程でオランダ、デンマーク、ドイツ、フランスの4か国を訪問し、ヨーロッパの農業情勢について視察・研修してきました。

帰国後に開催された視察研修参加者の座談会では、それぞれからヨーロッパ農業について見習うべき点が挙げられました。特に、オランダの花産業での、世界各国の好みや消費の傾向を分析して品種開発まで行うといった自国の商品を積極的に売り出す姿勢に刺激を受けたようです。その一方で、「価値観の違いもあるのが一概に比較はできないが、日本の農産物のレベルは高く、世界でも負けていないと改めて実感した」という声もあり、参加者にとっても、海外での視察研修は視野を広げ、自身の農業経営を見つめるきっかけとなる有意義な経験になったようです。